

萌

も え る

Summer, 2017

NISHI YOKOHAMA INTERNATIONAL HOSPITAL



医療法人
横浜博萌会

西横浜国際総合病院



INFORMATION

平成29年度のご挨拶
部署紹介 地域医療連携室
新任医師のご紹介
新入職員の入職について



VOL.54

ご自由にお持ち帰り下さい。

平成29年度のご挨拶

西横浜国際総合病院 院長

小松 永二

昨年熊本地震、最近では朝鮮半島問題など、不安なニュースが多く聞かれます。不確定要素の多い、先の見えない時代であります。医療情勢も超高齢化社会を目前として厳しい時代が続いております。当院は「安心・安全の医療 ～患者様と共に～」を理念に掲げ、健診、急性期から回復期、在宅までのシームレスな医療を提供できる体制を作り上げ、この街の地域包括ケア構想、安心して住める街づくりに貢献しております。そして本年度は、患者さんから職員までをひきつけるマグネットホスピタルを目指して精進してまいります。

より良質の医療を提供するため、昨年は内視鏡室拡張、高気圧酸素増設、健診センター改修、4F病棟改修などに投資を行い、本年度その効果が見られると期待しております。また本年度は、今まで患者さんにご迷惑をおかけしておりました耳鼻科外来改修を予定しております。発刊されている頃には新たな外来で診療を行っている予定ですが、皆様ご感想はいかがでしょうか。

昨年より、整形外科医退職により皆様方にはたいへんご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。おかげさまでこの5月より新たな整形外科部長の濱裕先生に赴任していただくこととなりました。南谷医師との強力タッグにより、さらに1～2名の整形外科医を増員し新たな整形外科チームを形成して、地域に大いに貢献していただけると期待しております。

一方、眼科は大学医局の都合により1年間は非常勤医師体制となります。1年後には従来の常勤医体制復活の予定です。ご迷惑をおかけしますがよろしくお願いいたします。

その他、大きな診療体制の変更はございません。地域密着型の病院として、ドクターもあまり変更がなく地に足のついた診療をしていただけるよう努めております。また、組織の活性のためには若いエネルギーが必要です。本年度も30数名の新入職員を迎え、420人体制で診療を行ってまいります。年度中には若いドクターの増員も考えております。

安定し、かつ進歩し活力のある組織として地域の医療、介護に貢献してまいりますので、本年度もよろしくお願い申し上げます。





部署紹介

地域医療連携室



入退院センター 清水

当院の地域医療連携室をご紹介します。
当室は、医療福祉相談部門・入退院センター・連携部門の
3部門で構成されています。

場所は病院3階の5番窓口になりますので、
何かご相談事がありましたら、どうぞお気軽にお立ち寄りください！

地域医療連携室 医療福祉相談部門

西横浜国際総合病院には、医療ソーシャルワーカーが在籍しています。

日進月歩の医療や日々変わる制度。病気になって、入院して、初めて経験されることも多いことと思います。また、病気によってご自身の心身以外にも、周囲の様々な状況が大きく変わることがあるかもしれません。困ったときに活用できる制度や、福祉に関すること、介護保険の活用に関する事など、様々なご相談に応じるのが医療相談室のソーシャルワーカーの仕事です。

相談窓口には「どうしたらよいかわからない…」「高齢夫婦だけの介護生活が不安…」等々、切実な悩みを持たれた方が来談されます。悩みや課題は一人ひとり異なりますが、私たちは皆さまの話を伺い、私たちの相談だけでは解決できない場合でも、地域の保健医療福祉機関と連携して支援させていただきます。いつでも遠慮なくお声掛けください。



地域医療連携室 入退院センター・連携部門

入退院センターでは、入院の決まった患者さんの入院手続きや退院時の入院費のお支払い手続きを行うほか、院内全体の病床の稼働状況を管理しています。患者さん本人、ご家族が安心して入院・退院ができるよう、サポートさせていただきます。

連携部門では、地域医療機関の先生方や協力関係にある高齢者施設との円滑な連携を実現するために、ご紹介患者様や各種検査依頼の窓口としての対応を行っています。また、各種の情報発信や健康関連イベントの開催を通じ、地域住民の皆様にとってより身近な、よりお役に立てる病院となるべく、地域住民の皆様とコミュニケーションしていきたいと思っています。



新任医師のご紹介



整形外科 部長
はま ゆたか
濱 裕

出身校：信州大学（昭和62年卒）
専 門：整形外科
資 格：日本整形外科学会整形外科専門医

5月から当院の外科系診療統括部長、兼整形外科部長に就任しました濱裕です。4月までは東京の葛飾区の病院に勤務していましたが、鎌倉育ちなので戸塚の地での勤務にはなんとなく懐かしさを感じます。

専門は膝関節と股関節で変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術や関節鏡視下手術、変形性股関節症に対する人工股関節置換術などを中心に手術的加療を行っており、昨年は前勤務病院で膝・股関節合わせて年間80関節ほどの人工関節置換術（人工骨頭を除く）を施行しました。また他院にて施行された人工関節の経年的変化等による緩み（ルーズニング）に対する人工関節の再置換術や外傷による人工関節周囲の骨折等の手術も積極的に行ってきました。

そのほか、上下肢の外傷全般にわたる手術的加療や椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症などの脊椎領域疾患での保存的加療なども行っていく所存です。慣れないところも多分にあるかと思いますが、宜しくお願いいたします。

■主な治療・症例紹介 人工膝関節置換術：TKA (total knee arthroplasty)

■適応

高度な変形膝に対して行い、保存的加療（膝関節内注射やリハビリなど）や関節鏡視下手術等で加療不可能なものが対象となります。階段昇降が困難、椅子からの立ち上がりで強い疼痛がある、また平地歩行でも疼痛のため跛行を生ずる場合などが適応です。全身状態に問題がなければ年齢の上限はありませんが、人工関節自体の寿命（主にプラスチックの部分です）を考慮し出来れば65歳以上が望ましいと思われます。関節リウマチや外傷性（膝関節の骨折後の変形治療）のものや疼痛の強い場合は年齢の下限はありません。現時点で感染のある場合には手術はできませんが、麻痺肢、認知症、病的肥満なども慎重に適応を決める必要があります。手術施行を決めるにあたっては、疼痛の程度やレントゲン所見だけでなく、場合によってMRIや関節鏡所見などが重要なこともあります。大切な点は「医師からの様々な情報提供のもとに、最終的に手術はあくまでも患者さん自身が納得して決める」ということだと思います。

■手術の目的

手術の主目的は除痛と正常に近い歩行状態の獲得です。除痛と言ってもその程度はやはり症例により異なるのが現実で、術後に疼痛が多少残る患者さんがいることも事実です。また術後は正座が少し可能であることもあります。術後の膝の曲がる角度は人により異なります。

■入院期間

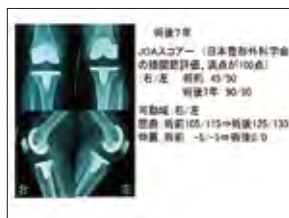
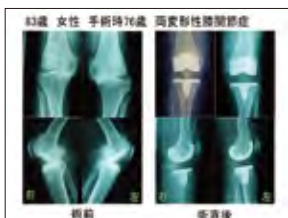
基本的には手術前日もしくは前々日入院で、術後はリハビリを3週から4週行い、少なくともT字杖歩行可能な状態での退院となります。退院後は週2日ぐらいの通院リハビリを2ヶ月ぐらい行うのが望ましいでしょう。



◀人工膝関節を置換した膝を横から見たところ



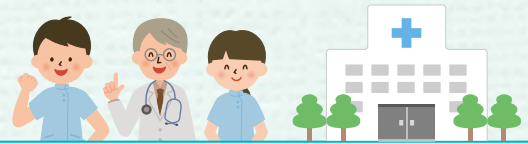
◀当院で使用している人工膝関節を斜め左前から見たところ



◀術後7年経過した人工膝関節の良好なレントゲン所見と症状の改善



◀平均手術時間の推移



麻酔科
もみやま ゆきのり
粕山 幸紀

出身校：横浜市立大学（平成8年卒）
専 門：麻酔科
資 格：麻酔科学会専門医、指導医、麻酔科標榜医

本年4月から麻酔科で勤務させていただいている粕山幸紀と申します。今までは麻酔科医が複数いる病院で働いてきました。一人で手術麻酔を運営していくことは始めてで、不慣れなことも多く毎日奮闘中です。皆様のお役に立てるように頑張ります。宜しくお願いいたします。

泌尿器科

耳鼻咽喉科

診察室の改修を行いました！

このたび、平成29年4～5月のゴールデンウィーク週間を利用し、泌尿器科及び耳鼻咽喉科の診察室の改修を行いました。

主な改修点としては、泌尿器科と耳鼻咽喉科の診察室の場所を入れ替えるとともに、耳鼻咽喉科の診察室を2室に増やすなど、より患者様のプライバシーに配慮した空間となるよう、各診療ブースのレイアウトの改善を行っております。

工事期間中は、患者様やご紹介をいただくクリニックの先生方には多大なるご協力をいただき、誠にありがとうございます。今後とも、患者様が使いやすい施設を目指して整備を進めていきたいと思っております。



泌尿器科

今回の改修により、泌尿器科と耳鼻咽喉科の診察室の場所が入れ替わりました。受診時にはお間違えのないよう、お気をつけください。



耳鼻咽喉科

診察室が2室になるとともに、ネブライザーや中待合室のスペースが広くなりました。



新入職員の入職について

今年度は、看護師20名、理学療法士6名、作業療法士1名、言語聴覚士2名、薬剤師1名、臨床検査技師1名、臨床工学士3名、ケアワーカー1名、事務職1名の総勢36名が入職いたしました。

晴天に恵まれた平成29年4月3日(月)に、横浜のホテルプラムにてセコム提携病院神奈川ブロック合同入職式が執り行われ、新入職員の皆さんは緊張した面持ちで入職式に臨まれておりました。時間とともに表情も和らいでいき、午後の研修では元気いっぱいの姿を見ることが

ができ安心しました。

高木理事長からの祝辞にもございましたが、初心を忘れることなく、職員だけではなく地域の皆様とも絆を大切に、立派な医療人になることを期待しております。

地域の皆様や患者様にはご迷惑をおかけすることもあると思いますが、温かな心で新入職員を見守っていただけると幸いです。今後の活躍にご期待あれ！



甲状腺機能障害

女性に多く見られる甲状腺機能の異常。甲状腺は首の前側にあり、食物に含まれるヨウ素を材料にして甲状腺ホルモンをつくり、血液中に分泌するところです。甲状腺ホルモンには新陳代謝を盛んにする働きがあり、多すぎても少なすぎても体調が悪くなってしまいます。

私のからだは私が守る

女性の
健康管理

どんな病気？

甲状腺機能亢進(甲状腺ホルモンの分泌が多い。バセドウ病など)と甲状腺機能低下(甲状腺ホルモンの分泌が少ない。橋本病など)に大別できます。どちらも不安や焦燥感などの精神症状がでるほか、甲状腺機能亢進では、やせや動悸、甲状腺機能低下ではだるさなどがあります。

治療法は？

甲状腺機能亢進の治療法には、薬物療法、ラジオアイソトープ療法*、手術療法の3つがあります。妊婦や授乳婦、近い将来妊娠を考えている人の場合は、赤ちゃんへの健康を配慮した、より専門的な治療を行う必要があります。

甲状腺機能低下の治療には、一般的に薬物療法を行います。少ない量から飲みはじめ、甲状腺ホルモン値の正常化を目標に徐々に増やしていきます。

*放射性ヨウ素のカプセルを飲んで甲状腺の細胞を部分的に壊すことで、甲状腺ホルモンの分泌を減らす治療法

甲状腺機能亢進

- 食べても食べても やせてしまう
- 疲れやすい、よく眠れない
- 動悸(どうき)がする ● 汗をかきやすい
- 下痢しやすい ● 月経が不規則



甲状腺機能低下

- 体重が増える、むくみがち
- 疲れやすい、寒さに弱い
- 声がかすれる ● 肌が乾燥しやすい、毛が抜ける
- 便秘しやすい ● 月経が不規則



こんな症状がいくつかあるときは、一度、医師の診察を受けましょう。

胃がん

がん検診
を受けよう



胃がんは、以前と比べると、男女ともに罹患率・死亡率が大きく下がりましたが、それでも大腸がんに次いで日本人が2番目にかかるがんです。死亡数でも、全がんの中で男性では2位、女性では3位と、まだまだ高い状況となっています。

一般財団法人 淳風会
健康管理センター 副センター長
(元 川崎医科大学総合臨床医学
准教授)

井上和彦先生



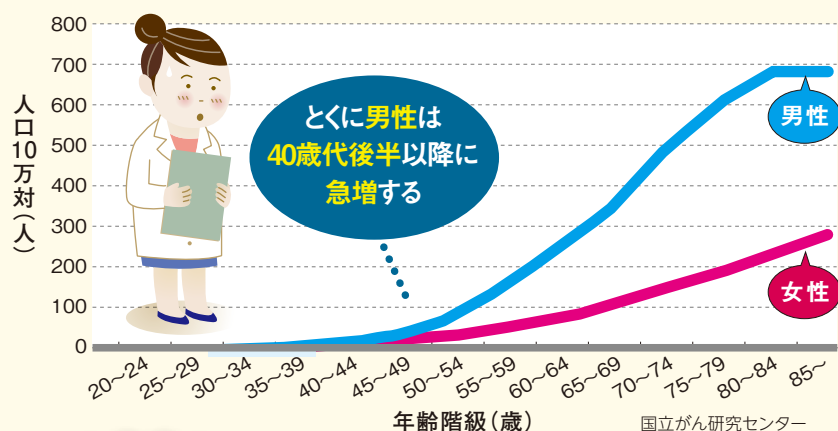
どれくらいの方が胃がんにかかっている？

胃がんの罹患率は40歳代後半以降に高くなり、**男性はおおよそ9人にひとり、女性はおおよそ18人にひとり、一生のうちに胃がんと診断されています***¹。胃がんはかつて日本人のがんによる死亡数の第1位でしたが、現在は、男性では肺がんに続き第2位(30,809人)、女性は第3位(15,870人)となっています²。

*1 出典：日本医師会「知っておきたいがん検診」

*2 出典：2015年人口動態調査

年齢階級別 胃がん罹患率(全国推計値)2012年



国立がん研究センター
がん対策情報センターより

■胃がんの病期別生存率

全国がん(成人病)センター協議会の生存率共同調査より

病期 (ステージ)	5年相対生存率 (%)
I	97.3
II	65.7
III	47.2
IV	7.3
全症例	73.1

とくに
注意が必要な人

右記の方は胃がんにかかるリスクが高いため、生活習慣を見直すとともに、胃がん検診を積極的に受けることをおすすめします。

- ピロリ菌*に感染している人(中高年で感染率が高い)
- 塩分をとりすぎる人、野菜や果物をあまり食べない人
- 喫煙している人

*胃の粘膜に生息する細菌で、胃の壁を傷つけ、胃炎や胃潰瘍・十二指腸潰瘍の原因となります。さらに、炎症が続いたり、萎縮(胃の老化現象)が進むことで、胃がん発生のリスクが高まります。

胃がん検診はどんな内容？

胃がん検診には、X線検査または胃内視鏡(胃カメラ)検査があります。X線検査はバリウムを用いて胃の壁面を調べ、胃内視鏡検査は、内視鏡を口や鼻から入れて、胃の中を直接観察します。どちらも検査前の食事や飲料の摂取制限があります。50歳以上は少なくとも2年に1回の受診を心がけましょう。

また、胃がんの原因となるピロリ菌の感染有無と胃粘膜の萎縮(老化現象)の有無を調べるABC検査があります。これは、胃がんになりやすいかどうかを分類する血液検査で、**これだけで胃がんを診断することはできません**。ABC検査でピロリ菌感染が判明した場合、適切な除菌治療(胃内視鏡で胃炎を確認すれば保険適用)を行うことで、胃がんのリスクを下げるができます。

胃がんの予防法は？

胃がんは、胃の粘膜内の細胞が、何らかの刺激や原因でがん細胞となることで発生します。そのため、胃への刺激を減らすことが予防につながると考えられています。

- ①塩分の高い食品やお酒は胃への刺激が強いため控えめに。
- ②胃がんのリスクを下げる野菜や果物はしっかりと。
- ③たばこを吸っている人は禁煙し、吸わない人も他人のたばこの煙をできるだけ避ける。
- ④早期発見のために、定期的に胃がん検診を受診する。

※日本人の胃がんの大部分はピロリ菌に感染している人や過去に感染していた人から発生しています。ピロリ菌に感染しているかどうかを見極め、感染がわかれば除菌治療によりリスクを下げ、その後も定期的に胃がん検診を受けることが大切です。



大人も

3大夏力ぜにご用心

夏本番、炎天下での仕事や運動、食欲不振や寝不足などの不規則な生活が続くと、免疫力が低下し、さまざまな感染症を引き起こす原因になります。

今回は従来、子どもの病気だと思われていた3つの病気について解説します。大人が感染する例も報告されているので、家族で予防に努めるようにしましょう。

プール熱いんとうけつまくねつ (咽頭結膜熱)

原因 主にアデノウイルス

潜伏期間 5～7日間

39～40℃の高熱やのどの痛み、目の充血などの症状を引き起こします。死亡例も報告されており、重症化するケースがあるので油断できません。プールの水を介して流行することが多く「プール熱」とも呼ばれますが、**飛沫感染や手指を介した接触感染もするので、通常の生活でも感染**することがあります。なお、プール熱は学校保健安全法で、第二種伝染病に指定されていて、解熱から2日を経過するまでは出席停止とされています。感染予防の観点から、プールには症状が治まってから1週間ぐらいは入らない方がよいでしょう。



監修 社会福祉法人 横浜市社会事業協会 なごみクリニック院長

武井 智昭

ヘルパンギーナ

原因 コクサッキーウイルスA群など

潜伏期間 2～4日間

乳幼児がかかりやすい夏力ぜの代表的なもので、**接触感染を含む糞口感染や飛沫感染が感染経路**となっています。2～4日の潜伏期間を経過して、突然の高熱のほか、上あごやのどの上に水疱ができたりします。5歳未満の子どもがほとんどですが、子どもから大人に感染することもあり、まれに熱性けいれんや脱水症など重症化することもあります。



手足口病

原因 コクサッキーウイルスA群など

潜伏期間 3～4日間

口の中や手のひら、足の裏に水疱性の発疹が出て、発症者の約3分の1に発熱があります。発症者の90%前後が5歳以下の乳幼児となっています。ほとんどは、数日間で治りますが、まれに、**髄膜炎、小脳失調症、脳炎**など中枢神経系合併症を生じることがあります。**飛沫感染、接触感染が主な感染経路**ですので、乳幼児が集団生活している保育施設や幼稚園などでは、とくに注意が必要です。



感染経路について

接 触 感 染

ウイルスに汚染されている人の皮膚や粘膜、血液に直接触れることによる直接接触と、手すり、吊革、ドアノブ、便器など汚染されている物体に触れた手指で、目や口、鼻などに触れることによる間접接触があります。



糞 口 感 染

便として排泄されたウイルスが口に入ってしまうことによる感染です。大人の感染の場合は、感染している子どものおむつ交換後、手指の洗浄が不十分のままで食品を扱ってしまうことが主な原因となっています。



飛 沫 感 染

せきやくしゃみ、会話などでウイルスに感染している人の飛沫(細かい水滴)を鼻や口から吸い込むことによる感染です。ただし、飛沫は直径5ミクロン以上で水分を含んでいるため、ある程度の重さがあり、2mぐらい離れていれば飛沫感染することはありません。



感染症予防は、手洗いの徹底が基本です

3大夏カぜに効くワクチンや特効薬はありません。予防のためには食事の前や帰宅後、用便後には必ず手洗いとうがいをしてください。プールの前後には、シャワーや洗顔をきちんと行うこと。家族間を含め、他の人とのタオル・ハンカチの貸し借りは避けるようにしましょう。

発症後は、何よりも塩分・水分不足にならないようにします。常温のスポーツウォーターや経口補水液などによる水分摂取に努めましょう。食事はおかゆ、うどんなど消化の良いものや、のどの痛みがあるときは温かいスープや味噌汁、免疫力を高めて回復を早めるタンパク質を多く含む白身魚や豆腐、卵などがおすすめです。



海外旅行、感染症予防のポイント

夏休みを利用して、外国への旅行を計画している方も多いでしょう。赤痢や腸チフス、パラチフスなどの感染例が増えているので、現地での感染症には十分気をつけてください。厚生労働省の検疫所や外務省の海外安全ホームページ(右記参照)で、渡航先の感染症の発生状況に関する最新情報などを確認しましょう。

お出かけ前にここを
チェック!

- 厚生労働省検疫所「FORTH」
<http://www.forth.go.jp/link/>
- 外務省海外安全ホームページ
<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

旅 行 前

渡航先で流行中の感染症を確認し、必要な予防接種を受けましょう。



旅 行 中

最も感染の可能性が高いのは、食べ物や水を介した消化器系の感染症です。以下のことに気をつけましょう。

- 手洗いは、こまめに
- 生水は避け、ミネラルウォーターを飲む
- 生野菜、カットずみのフルーツを食べない
- 氷入りのジュースやビール、水割りやカクテルを飲まない
- 完全に火の通ったものを食べる
- 調理後時間の経ったものを食べない

旅 行 後

下痢や発熱など、体に異常があれば早めに医療機関を受診しましょう。なお、厚生労働省は空港や港に設置されている検疫所で、健康相談を行っています。



「足に合った靴で歩く」

外歩きが楽しい季節、足ごしらえは万全ですか？
履き心地のよい靴を履けば運動量もおのずとアップ！
軽快な歩行は健康長寿にもつながります。

有野真由美（健康情報ライター）

毎日ハズんで暮らそう

血液循環を良くする足の働き

歩くことは最も基本的な運動です。しかも、昔から足は「第二の心臓」といわれ、全身の健康に直結しています。

身体の末端にあたる足には、心臓の収縮だけでは十分な血液が届きません。心臓を補助するポンプの役目を担っているのが歩行です。歩くと足の筋肉の収縮が活発になり、血液循環が促されます。足をよく動かすと四肢の先まで血流量が増えるのです。血行が改善されると水分の排出もスムーズになるため、むくみ、冷え、しびれなどが起こりにくくなります。歩けば歩くほど足の筋肉が強化され、第二の心臓としての機能が高まるというわけです。

また、歩くと呼吸数が増えるので心肺が鍛えられ、酸素吸収量が増えます。さらに、脳の血液循環も活発になり、脳の若さを維持できるのです。散歩をすると頭がすっきりしてリフレッシュするのは気のせいではありません。血液が運ぶ酸素が脳にゆきわたるのです。

歩きやすい靴だと気分も快適

健やかな人生の土台ともいえる足ですが、忙しい現代生活では「歩く」という基本的な動作がおろそかになりがちです。今いちど、歩くことの大切さを見直したいものです。

歩くときに欠かせない靴も、実は健康を守る重要な「道具」。安全・快適な歩行は、足に合った履き心地のよい靴を選ぶことから始まります。

足の形状は一人ひとり異なっています。合わない靴を履くことは危険であるばかりか、足や膝の痛みなどトラブルの原因にもなりかねません。足腰の骨や筋肉にも大きな負担がかかります。

高齢になると、転倒予防に配慮した安全設計の靴を選ぶことも重要です。若い人に比べて重心が外側に寄っている

参考 ウォーキングシューズ（歩きやすい靴）の選び方

※専門知識を備えた店員のいる店で靴選びをしましょう。

①全体
足全体を包み込むような安定感があると良い。

③かかと
安定性を保ち、歩くときの踏み返しが楽なもの。

②つま先
足の指を自由に動かせる程度のゆとりがあるもの。

④靴底
歩くときの衝撃を吸収するクッション性に富むもの



ので、思わぬところでバランスを崩したりします。また、足先が十分に上がらず「すり足」になるため、爪先が地面にひっかかりやすくなりがちです。足首の動きが悪いために、わずかな凹凸に対応できずに転倒することも少なくありません。最近では、足に無理のないデザインウォーキングシューズやコンフォートシューズも開発されています。手間と時間を惜しまず、流行に左右されず、足の個性をカバーしサポートしてくれる歩きやすい靴を選びたいものです。きつくもゆるくもない、ピッタリとフィットする靴で歩けば動作も心も軽やかです。外出の楽しみも増すことでしょう。



食事で 認知症のリスクを減らす

認知症は高血圧や糖尿病などとも深い関わりがあり、生活習慣病といっても過言ではありません。ですから、現役世代からの生活習慣の積み重ねが、認知症の発症に大きな影響を及ぼします。ここでは、健やかな老後のために、今からはじめられる予防法を紹介します。



認知症予防につながる 食事とは

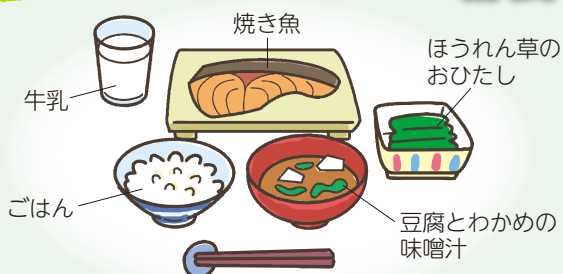
認知症の発症リスクが低い人たちの食生活の傾向を調べてみると、野菜、海藻類、大豆・大豆製品、魚介類、牛乳・乳製品を多くとっていることが明らかになりました。

青背の魚に含まれるDHA（ドコサヘキサエン酸）やEPA（エイコサペンタエン酸）には、脳の神経細胞を維持する働きがあるとも考えられています。魚介類や野菜を多用する和食や地中海料理*がおすすめです。

*イタリア料理・スペイン料理など野菜と魚介類、オリーブオイルの多用が特徴。

例えばこんな食事はいかが？

朝食



昼食



夕食



減塩も効果大

高血圧になると、脳梗塞など脳の血管障害が発生しやすくなるので、その結果、血管性認知症*1につながり、重度の高血圧の人は、正常な血圧の人と比べ、最大で約10倍も血管性認知症を発生しやすいことがわかっています*2。高血圧を発症する大きな要因は塩分のとりすぎなので、減塩が認知症予防につながるといえます。1日の摂取量は男性8g未満、女性7g未満を目標に、減塩を心がけましょう。また、健診などで高血圧を指摘されている人は、医療機関を受診してください。

*1 脳梗塞や脳出血など、脳の血管障害によって起こる。男性に多い。

*2 我が国における高齢者認知症の実態と対策：久山町研究（九州大学大学院医学研究院）

塩分を 減らす 工夫

- インスタント食品は塩分が多いので控える
- 麺類のつゆやスープは残す
- 漬け物・佃煮・塩辛などは控える
- 味付けはレモンや酢、香辛料でメリハリを

歯の健康も 認知症に関係あり

40歳以上の日本人の8割がかかっているといわれる歯周病。実は、大人になって歯を失う原因の1位であり、認知症とも関係があります。まずは、歯周病が原因でつくられるサイトカインという物質が、脳の神経細胞に悪影響を与えると考えられています。また、歯周病で歯を失うと、食べ物をよく噛めなくなるので、脳の血流が悪くなり、認知機能が低下していきます。

日頃の歯みがきと定期的な歯科検診によって、歯周病を予防しましょう。また、歯を失ったときは放置せず、義歯を使いましょう。義歯であっても「噛める歯」を維持すれば、認知症リスクを下げることができます。

病院ビジョン

1. 急性期から在宅まで、シームレスなサービスの提供により地域へ貢献する
2. 患者・利用者・家族に積極的に関与し、個別のニーズを追求する
3. やりがいと喜びを育み、全職員参加型の活気あふれる組織を構築する

患者様の権利と患者様へのお願い

病気の治療は、医療を受ける側と提供する側の共同作業です。
お互いの理解と信頼のために以下のことをご確認ください。

1. 良質な医療を受ける権利

全ての患者様は、健康保険法で認められた、良質で最善の医療を公平に継続して受ける権利があります。また、必要な時にはいつでも、医療従事者の援助・助力を求める権利を有します。

2. 適切な説明を受ける権利

治療や症状について真実を知り担当医師や受け持ち看護師より、納得が出来るまで説明を受ける権利があります。その説明に対して納得がいかない場合は他の医師の対診やセカンドオピニオンを受ける権利があります。

3. 選択の自由の権利

病院や医師を自由に選択し、十分な説明を受け、意見を述べ、治療方針を自らの意思で選択し、治療を受ける権利と治療を受けることを拒否する権利があります。

4. 個人情報や秘密が守られる権利

診療や治療で医師や従事者が知りえた患者情報、全てのプライバシーの機密が守られる権利があります。患者本人の承諾なくして、第三者に開示されない権利があります。

5. 個人の尊厳が尊重される権利

患者様は、自ら病を克服しようとする主体として、医療の場において、常にその生命・身体・人格が尊重される権利があります。また、出来る限り尊厳を保ち、安楽に人間的な終末期を迎えるためのあらゆる可能な助力を受ける権利があります。

6. 情報開示の権利

所定の手続きを経ることによって、ご自身の診療録の開示を求めることが出来ます。

7. 情報を提供する責務

医師をはじめとする医療提供者に対して、自身の健康に関する情報を出来る限り正確に提供する責務があります。

8. 医療に協力する責務

全ての患者様が等しく患者の権利を行使するためにも、病院の規則を守り、提供される医療に協力する責任と、他の患者様の治療に支障を与えないよう配慮する責務があります。

9. 理解しようとする義務

全ての患者様は、説明を受けたことにつき真摯に理解しようと努める責務があります。

職業倫理

西横浜国際総合病院の職員は、医療人としてその職責の重大性を認識し、すべての職員が病院理念および基本方針に基づき、意欲と誇りを持ってその使命を果たすことを目的として次の通り職業倫理に関する指針を定めます。

1. 医療サービスの質の向上を図るため、確かな知識の習得と技術の研鑽に努めるとともに、良識ある職業人として教養と品性を高め、資質の向上に努めます。
2. 医療の公共性を重んじ、地域社会へ貢献するとともに法規範の遵守に努めます。
3. 患者様の人権を尊重し、良心をもって、平等に接し、十分な説明と同意に基づく適正かつ公正な医療の遂行に努めます。
4. 患者様の信頼を得るために、医療内容やその他必要事項について十分な説明を行います。
5. 患者様のプライバシーを尊重し、職務上知り得た情報の守秘義務を遵守します。
6. 職員は互いに尊敬し理解し合い良き協力関係を築き、連携してチーム医療の実践に努めます。

■ 診療受付時間 平日・土曜とも 午前 7:30 ~ 11:30
平日のみ 午後 0:00 ~ 4:30

■ 診療開始時間 午前 9:00 ~ 午後 1:30 ~ (平日のみ)

■ 診療科目 内科(一般・腎臓・呼吸器・循環器)・外科消化器科・乳腺内分泌外科・耳鼻咽喉科・整形外科・泌尿器科・神経内科・眼科・脳神経外科・精神神経科・麻酔科・リハビリテーション科



(財) 日本医療機能評価機構認定病院 Ver.6 認定第 GA220-3 号

医療法人
横浜博萌会

西横浜国際総合病院

〒245-8560

横浜市戸塚区汲沢町56

TEL. (045) 871-8855

<http://www.nishiyokohama.or.jp>

